

**識字教室、識字・日本語教室
日本語教室開催状況アンケート
報告書**

2020年8月
識字・日本語センター

「識字教室、識字・日本語教室、日本語教室開催状況アンケート」

集 計

2020年6月に実施した「識字教室、識字・日本語教室、日本語教室開催状況アンケート」集計を報告する。ご協力いただいた自治体や国際交流センターなど、担当者の皆さんには、感謝の言葉を述べたい。

調査概要は次の通りである。

—調査概要—

調査実施主体 ◆ 識字・日本語センター

調査対象 ◆ 大阪府内市町村識字・日本語教室担当者、国際交流センター日本語教室担当者

* 教室の性格としては、主として成人を対象とするもの

調査内容 ◆ 教室開催状況、休講中の対応、教室再開についての工夫、新型コロナウイルス感染予防のための工夫、教室再開に向けた資料、再開をめぐる課題や困りごと

調査方法 ◆ メールによる自記式アンケート

* メールでアンケート票を送り、メールで返信（A4、4ページ）

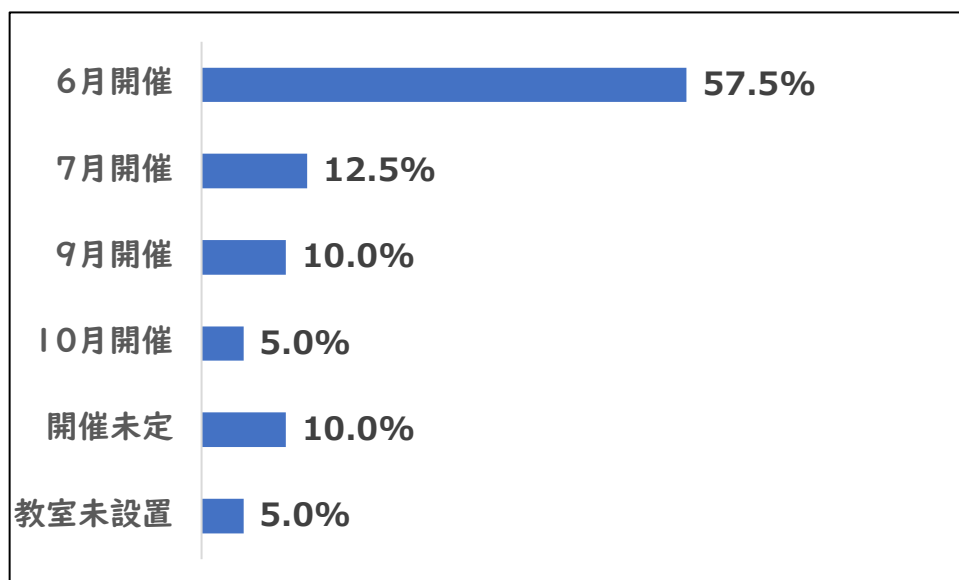
発送日は6月8-10日

回答締め切りは6月21日（最終締め切りは6月30日）

基準日 ◆ 2020年6月1日現在

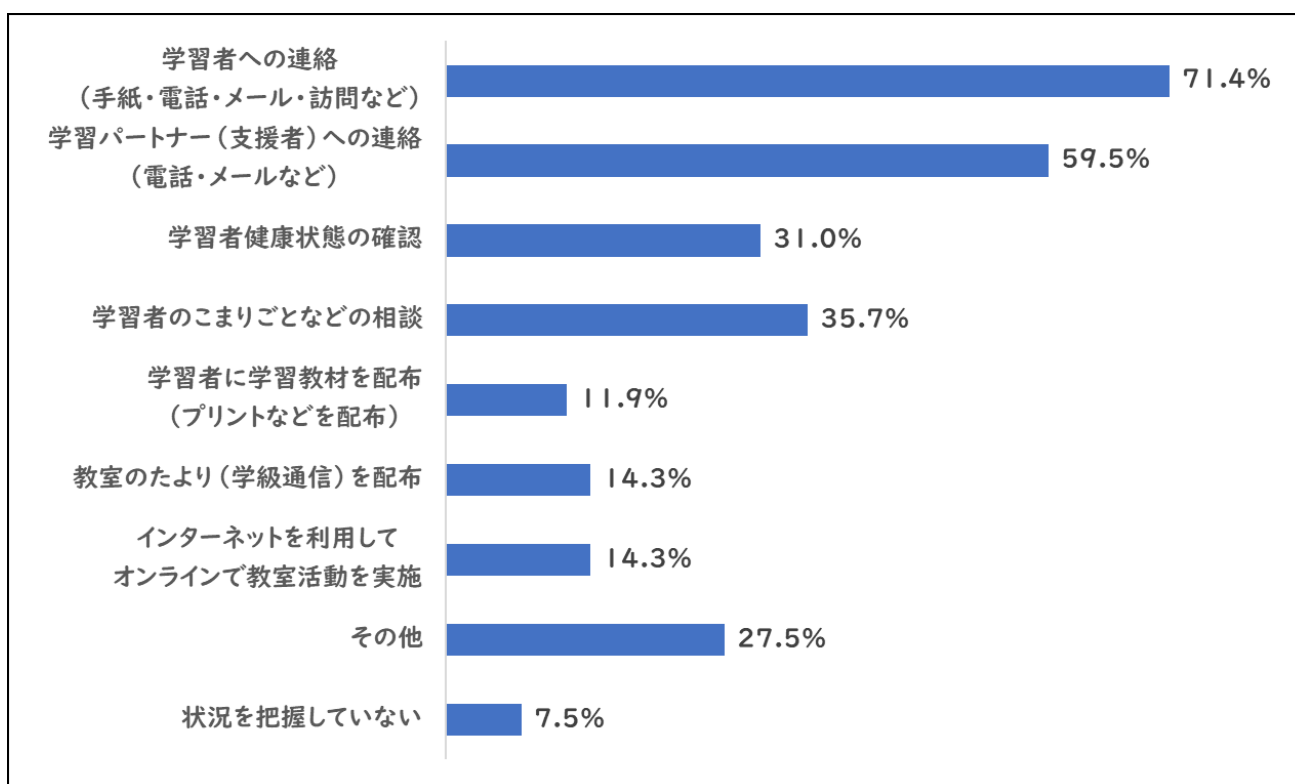
回答状況 ◆ 発送数：74 回答数：42

1. 教室開催状況について



6月に開催を予定しているとの回答が5割を超えている。学習者のなかには生活に困っている人たちもあり、早い開催が望まれていたとはいえ、一方で高齢者をはじめ感染を心配する人たちも少なからずいた。5割を超えているというのは、調査した側としては予想よりも高かった。調査時期はちょうど第1波の感染拡大が収まって、PCR検査の陽性者がかなり少なくなっていた時期だということも影響しているものと思われる。また、6月に再開予定で動いているという教室も、具体的に進めようとして困難に出合っている事例もあることが予想される。

2.休講中の対応



休講中に何もしていない教室は少数派である。「状況を把握していない」という回答は7.5%にとどまった。学習者への連絡を取ったり (71.4%)、学習パートナーに連絡を取ったり (59.5%)、学習者の相談に乗ったり (35.7%)、学習者の健康状態を確かめたり (31.0%) するなど、さまざまな活動をしている教室がほとんどである。

以下に紹介するのは、この質問項目の「その他」という選択肢に対する自由記述欄に書かれていた内容である。「*」が一つの回答自治体・センターからの回答を示している (以下、他の質問項目についても同じ)。自治体や教室、学習者の固有名などが特定されるような自由記述については、内容を匿名化するよう努めた。

その他……自由記述

* 多言語対応できる医療通訳 AMDA や大阪府国際交流財団 OFIX、多言語情報が得られる多文化共生ポータルサイトを、COVID-19 に関する電話相談、情報先として学習者へ紹介した。

* 例年同様に本年度4月に教室の募集を行い、受講対象者 (学習者) へは、受講決定通知を送付済。その後、市の方針に従い、講座休講措置が延長される都度、学習者及び学習支援者 (近隣小中学校教師) へ講座開催延長の連絡文書を通知しています。

- * 電話・LINE 等による学習者の状況確認と助言。
- * 一部の教室で、個人的にオンラインレッスンをやっている。
- * 教室代表者に連絡、学習者の状況を確認。
- * 定額給付金の多言語での案内を周知依頼。
- * 国際交流センターとして、新型コロナウイルスに係る情報の多言語発信。
不安があれば電話にて相談対応。
- * 1 教室のみ オンライン教室を実施。
学習者向けアンケートを実施。
- * 年度末配布予定の文集を学習生に配布した。
- * 講師を通して、教室の受講者に外国語に対応した新型コロナウイルス相談窓口の情報を提供した。
- * まだ開催していないため未実施。
- * 文集の送付

3. 教室再開についての工夫……自由記述

教室再開に向けての工夫については、多くの回答者から具体的な記述が返されていた。担当者が強い問題意識を持って関わっていることがうかがえる。以下に記すのは、この調査項目の自由記述内容である。

* 複数の教室に分かれて密を避ける。

宿題・添削などをおこない長時間の接触を避ける。

* 以下のとおり、人数制限の工夫をするつもりです。

- ① 教室外で授業を行う。
- ② 規定授業日以外に授業を行う。
- ③ 学習会に来る頻度を少なくする。
- ④ オンラインを活用する。

* 各人マスクの着用、会議室入室前に手指をアルコールによる消毒、着座の間隔を空ける、換気など。

* 10月第1週目の開催を目指すため、今後会議を開催し方針を決定していく予定。

* 健康チェックシート（日本語版もしくは英語版）による確認を毎回全受講者に実施し、学習支援者に対しても実施している。また、感染予防に関するプリント、新しい生活様式を多言語で準備し説明、配布している。受講者にはマスクを必ずつけてきてもらうようにして、受講中は部屋の換気をしっかりと行い、対面を避けた学習を心掛け、受講者数が多くなるようであれば部屋を2つに分けて学習する等の対策を行っている。部屋使用後は受講者、学習支援者にも協力してもらい自身が使用した机や椅子の消毒作業を行っている。

* ①入室前の手洗い・手の消毒

- ② マスク着用
- ③ 検温
- ④ 体調表記入
- ⑤ 使用するテーブルの消毒
- ⑥ 学習席の間隔をあける
- ⑦ 教室の喚起
- ⑧ 学習終了時のテーブルの消毒

⑨テキストを除菌ウエットティッシュで拭く

⑩終了後の手洗い・手の消毒

* ①ボランティアの意思確認

②人数（ボランティア・生徒）の把握

③3密を回避するためのルール

④フェイスシールド購入

⑤健康チェック表

* 三密をさけるために

換気の徹底

机の配置をかえてソーシャルディスタンスをとる

マスクの着用 アルコール消毒および検温し表に記入する

幼児同伴の禁止

* ①手洗い・消毒の徹底、マスク着用や換気等

②学習支援者にフェイスシールドを付けていただく

③学習室の学習者の数が多い場合は、別の開いている部屋に、移動して密を防ぐ

④始まりの歌（一斉合唱）は当面中止

⑤一対一の場合は横並びで距離をとり、一対複数となる場合は、質問があるときのみ隣で対応して、対面にならないようにする

* 今後の対応については、6月末に学習支援者を集めて、話をする予定

* ①施設内の換気…窓が開かないので、全部屋の扉を開放し扇風機で空気循環させる

②消毒液の設置…手指消毒の徹底。不特定多数が接触する箇所の消毒

③マスク・フェイスシールドの着用…学習者はマスク、ボランティアはフェイスシールドの着用を徹底

④体温チェック…参加者は自宅にて検温。検温をしていない人はその場で測る。発熱がある人は教室に参加しない

⑤教室内でのソーシャルディスタンスの確保…1部屋の定員を決め、学習者とボランティアの距離を1.5m程度とる

⑥開催時間を延長し分散実施

* ①密集を避けるために、複数の部屋に分かれるか、大きな部屋へ学習場所の変更

②パートナー数の縮小

③健康チェックの実施

- * ①公共施設である公民館を活用しているため、その貸館のガイドラインに沿っている（室内の人数／3密を避ける／休憩を多めに／消毒／検温／マスク着用）
 - ②再開前に学習ボランティアと事務局にて打合せ（対応策や学習者の様子など情報共有）
 - ③ボランティアから個人へ声掛けしてもらい、無理せず出席してもらう
 - ④会話は控えめに、かつ会話学習も避ける
 - ⑤プリントを配布し、ボランティアが〇つけして返す方法で、常に隣につきっきりにならないようにする
 - ⑥会話学習を希望する学習者のためにフェイスシールドを用意（ボランティアが着用）
 - ⑦広い部屋が確保できない日は予定から変更して休室にする

- * ①対面での指導は避けている（会話練習）
 - ②ドリル形式で行っている
 - ④教室内の定員制限。追加でもう一部屋確保して実施

- * マスクの着用・手洗いの推奨・消毒の徹底等の対応を行うとともに、人と人との間隔を確保し、使用部屋は収容人員の半数以下となるように注意するとともに、学習者及び学習支援者には体温測定等による体調管理に努めるよう促し、来館時は体温測定器でリスク回避を図れるように現在体温測定器を購入中。

- * ①机の配置（1～2メートル空ける。対面にならないよう、席は横並びに）
 - ②マスク、手洗い、手指アルコール消毒等を事前通知およびポスター掲示での周知
 - ③机等の消毒、換気等の徹底
 - ④教室内の定員制限。追加でもう一部屋確保して実施

- * ①机の配置（1～2メートル空ける。対面にならないよう、席は横並びに）
 - ②マスク、手洗い、手指アルコール消毒等を事前通知およびポスター掲示での周知
 - ③机等の消毒、換気等の徹底
 - ④教室内の定員制限。追加でもう一部屋確保して実施。

- * ①アルコール消毒液やマスクなどを調達している
 - ②一部の教室で、アクリル仕切り板を手作りしている

- * ①通常、1 時間半から 2 時間の授業を、55 分に短縮等（別添資料あり）
 - ②授業の開始前にアンケートの実施（別添資料あり）

- * ①体温測定
 - ②マスクを着用しての授業
 - ③教室の窓を開ける等の教室の換気
 - ④石鹸、消毒液等による手の消毒

- * 大阪府作成「識字・日本語教室の再開に向けた対応」を参考に対応

- * ①教室の換気状況、配席についての確認
 - ②消毒液等の手配

- * ①マスク着用徹底を周知
 - ②来館前の事前検温のお願い
（非接触型体温計を手配中で、届き次第講座開始前に全参加者の検温実施予定）
 - ③1名の講師に対して4名の参加者限定（参加者同士の距離を最小1m離す）
 - ④密をさけるため、講座開催のための諸室を増加
 - ⑤講座開始前に、参加者の健康チェック
 - ⑥1時間立った時点で、窓と扉を開けて5分間完全換気を実施

- * 当面は Zoom を使ったオンラインでの運営を予定。

- * 各教室により利用条件が異なりますが、基本は以下の通りです。
 - ①各教室の名簿の提出（名前・住所・電話番号・年齢など）
 - ②各教室の制限人数、利用時間について
 - ③各教室を使用時の注意点 入口でアルコール消毒と体温チェック（基準は 37.5 度）
 - ④1時間に2回換気する
 - ⑤お互いの距離は、極力2mあける
 - ⑥ボランティア・学習者の中で、感染症を発症した場合の連絡
会員→教室運営理事→各施設、保健所、代表に報告

- * 多人数の教室の会場を広い会場に変更することを検討している。

- * ①ソーシャル ディスタンスを確保
 - ②マスクの着用

* 「学習塾事業者における 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」やその他大阪府から提供されている対策に関する情報を元に、教室における「感染予防マニュアル」を作成し、それに基づいた教室運営を行うようにしている。

* ①体調がすぐれない場合、熱のある場合は休むこと、マスクの着用について、事前に連絡

②当日の体調等についてチェック項目への記入

③使用する机等の消毒、手指の消毒等、留意点（8つ）をチラシにて配布し説明

④参加人数の多い時間帯は、隔週に分けての活動にて調整

⑤使用する部屋を換気のいい部屋に変更

⑥使用する部屋の窓の開閉の対応

⑦部屋の使用人数を大幅に減少して使用

* 6月1日現在の状況は、教室再開をしておりますが、再開するとした場合に想定される工夫としては、

①向かい合っでの学習ではなく、横並びでの学習形式をとる

②机同士の距離をできるかぎり1m以上あける

③教室の出入時の手指の消毒

④マスクの着用をお願いする

⑤体調の確認を実施する

などが挙げられます。

* ①集会室などの大きな部屋を利用し机の間隔をあけて開催する

②対面シールドを作成し設置する

③マスク着用を義務付ける

④換気を義務付ける

⑤名簿及びその日の体温を記録する

⑥教室終了後に使用した備品の消毒をする

* 大阪府より提供のあった感染拡大予防ガイドラインや資料にて情報を共有し、資料を教室に配布し理解を促す。

* 実施にあたってのガイドラインを作成し、講師、ボランティアに示した。開催にあたっては、これにもとづき会場の拡大、消毒用アルコールの配置、窓及び扉の開放などを行っている。

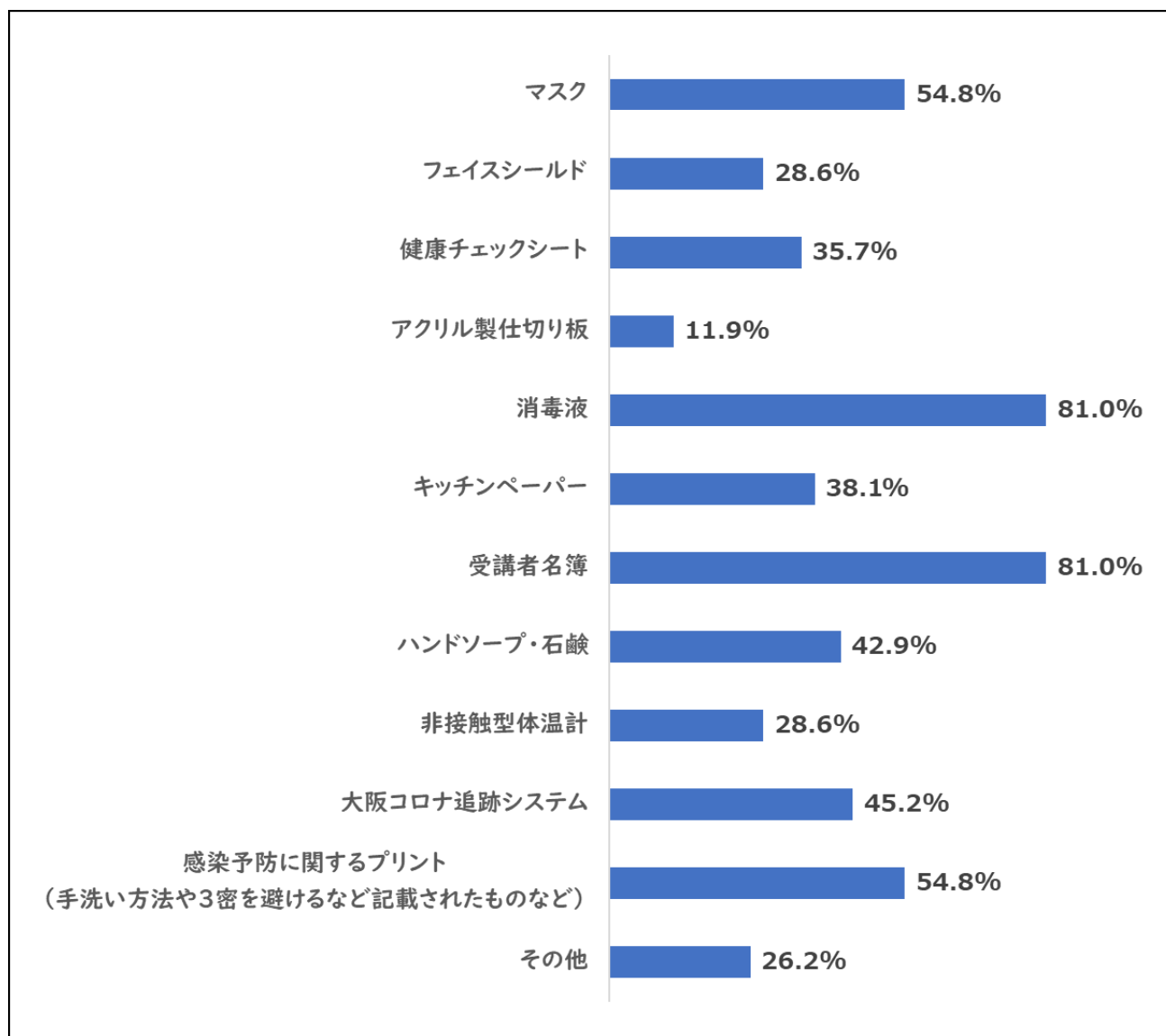
- * ①定期的な換気の時間を設ける
 - ②参加者の体調チェック、マスクの着用
 - ③消毒液を活用し、使用前後での消毒

- * 検討中

- * 設置主体・運営主体・教室の三者で感染症予防対策について話し合いを実施。
学習の際には、間隔をあける、パートナーはフェイスシールドを着用

- * ①参加者全員がマスクの着用
 - ②会場入室前後の手指消毒
 - ③学習者と支援者の間隔をあける（1 m）
 - ④教室に来る前に自宅で検温を行ってきてもらう
 - ⑤教室開始前後の机、椅子の消毒
 - ⑥換気の徹底
 - ⑦教室内の定員制限
 - ⑧学習者の数が多い場合は、別の教室に移動して分散開催
 - ⑨共用物品の使用前後の消毒

4.教室を再開する際、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からどのようなものを教室として準備されていますか（準備中も含む）。あてはまる項目にいくつでも✓をお願いします。



「受講者名簿」と「消毒液」が最も高く、ともに 81.0%割となっている。消毒液は、手指の消毒や椅子や机など施設や設備の消毒に必要となる。受講者名簿は、新型コロナウイルス感染者が発生したときの追跡に不可欠とされている。また、教室に来たときに体温を記してもらうためにも名簿は必要となろう。

これら二つの項目に次ぐのが、「マスク」および「感染予防に関するプリント」であり、両者ともに 54.8%となっている。マスクについては、自治体によっては個人所属となる物品なので用意できないようだが、半数を超える回答者はマスクを教室側で用意していると答えている。おそらく、多くの場合は全員に配るというのではなく、マスクを持ってきていない人がいたら、その人に提供するためのものであるだろう。学習者が安心して学べるには、あるいは教室に来た人を追い返さずにすむには不可欠の物品といえるかもしれない。

感染予防に関するプリントは、もっと多くの教室で準備しているものと予想していた。これは、現在の状況について正確な情報を得るための全体学習などでも使うことができる、いわば教材の一つだともいえよう。こういう重要性や緊急性の高い情報については、母語で情報提供することが望ましいと言われている。日本語で作成する場合にも、わかりやすい日本語で作られる必要がある。もしもまだそれらが準備されていないとすれば、そのようなプリント類を用意する方向に動きたいところである。

そのほかの項目は、半数を割り込んでいる。その中で最も高いのは、大阪コロナ追跡システムであり、45.2%となっている。これは、大阪府が提供している「感染者と接触した可能性のある方を追跡することができるシステム」である。「施設の利用やイベント参加の際、QRコードを活用して利用者がメールアドレスを大阪府に登録し、同じ日に登録された方が、後日、新型コロナウイルスへの感染が判明した場合、施設の規模等に応じて、大阪府から施設等利用者にメールで注意喚起のお知らせ」が送信されるものだ。

それに次ぐのは、「ハンドソープや石鹸」の42.9%である。新型コロナウイルスの感染経路が明らかになる中で、手指を清潔に保つことがいかに重要であるかが示されている。その意味で言うと、これはかなり低い数字だと言うこともできる。改めて準備しなくても以前からあるために選ばなかった教室もあるのかもしれない。または、手指用の消毒液を準備し、選択項目「消毒液」を選択しているのかもしれない。

それに対して、それ以下の諸項目は以前から準備しているとは考えにくいものがほとんどである。「キッチンペーパー」(38.1%)、「健康チェックシート」(35.7%)、「フェイスシールド」(28.6%)、「非接触型体温計」(28.6%)、「アクリル仕切り板」(11.9%)などは、いずれも新型コロナウイルスの感染予防に関連して取り上げられるようになった物品である。

それにもかかわらず、これらの諸項目が比較的低い数字に止まっているのは、いくつかの異なる理由によるものと考えられる。たとえば「キッチンペーパー」は、ふきんやティッシュペーパーで代替できる。「フェイスシールド」や「アクリル仕切り板」は「マスク」の補強となる物品であるとともに、まださほど効果が確かめられていないといえるかもしれない。

それに対して「健康チェックシート」や「非接触型体温計」は、教室運営にとって不可欠で代替のききにくい物品だといえよう。それにもかかわらずこれらの回答が低いのはなぜだろうか。「健康チェックシート」は、まだ今の段階では準備していないということかもしれない。また、「受講者名簿」に実質的に含んでいる可能性がある。それに対して「非接触型体温計」は、重要性が高そうなのに回答率が低い。これは比較的単価が高いために、購入に向けて動き切れていないということなのかもしれない。あるいは、教室のために購入すると言うよりも、施設で1つもしくはいくつか購入しているので、教室単位で購入の必要がないという判断があるのかもしれない。

「その他」を選んだのは、26.2%の回答者である。以下に紹介するのは、「その他」の項目を選んだ回答者のうちで自由記述欄に具体的に書いてくれた内容である。これらを見ると、上に紹介した他の選択肢になぜ○つけなかったのかという理由の一端をうかがうことがで

きる。

その他……自由記述

- * 段ボールパーテーション、消毒ふき取り専用タオル

- * 同じ時間帯に固まり、密になることを防止するため、事前に時間調整を行っている。

- * 大阪コロナ追跡システムは、使用する会場のものを利用する。
普通の体温計、消毒ペーパーを用意する。

- * 教室のある施設に、消毒液は設置している。

- * フェイスシールドは講師クラスの講師のみ用意。ボランティアクラスでは用意無し。
事務所内に飛沫防止シートを設置。

5.教室開催についての課題、こまりごとなどご自由にご記入ください

……自由記述

最後の質問項目では、「課題やこまりごと」について自由に書いていただいた。自由記述を書いた回答者は全回答のなかで 28 件あり、回答者全体のなかの 3 分の 2 に及ぶ。担当者や教室が、さまざまな課題を捉え、工夫をしてこの状況を乗り越えようとしていることがわかる。他の自治体や教室の取り組みを参考に、今後とも、教室再開や運営に取り組みられるものということができる。

- * 感染拡大リスクが全くゼロになるまで待つか、with コロナでいくか。衛生安全面では、全くゼロまで開催しないのがいいが、このような事態の時（緊急事態宣言下ではない）、異国、異文化の中でサポートを必要としている学習者にとっては、断然、開催していることが望まれます。このジレンマに悩みます。
- * 日本語の教室については、ボランティア団体が実施しています。市の窓口としては、ボランティアさんが安心して教室を実施できるよう、手指の消毒液を配置したり、定期的な換気を実施するよう助言したりしている現状です。
- * 学習支援者の高齢化が進んでいるので、新しい学習支援者の確保が課題である。
- * ①学習者との距離をとらなければならないが、声を出してのコミュニケーション方法が課題。
②学習者の追跡を行う上で、連絡先不明（電話がないなど）の問題があるかもしれない。
③スタッフで安全への考え方が異なり、とりまとめが難しい。
- * 1 対 1 での学習の際に受講者、学習支援者のソーシャルディスタンスを保つのが困難である。受講者一人一人の学習レベルにも差がある為、学校の授業のようなスタイルで受講者をまとめて教えることが難しい。他自治体ではどのような形態で学習しているのかが知りたい。
- * 教室を換気する必要があるため、窓を開けて授業をしているが、蚊が入ってくるため網戸の設置を検討中。その他にも蚊取線香や虫除けスプレーなど色々と費用がかさんでしまうのが悩みどころ。
- * 会場人数の定員の半数にするために、どのようにするか検討している。

* 1対1の授業形態なので学習者がふえると断ることになる恐れがある。

学習者および支援者の日常の健康管理状況が分かりにくい。

* 当協会が実施していた教室は講師1名に対して定員15名、基本的に1年間のクラス形式でカリキュラムもある（1対1のマンツーマン形式での教室は各市内ボランティア団体が行っている）。国府市によって示されている対策を講じると、当協会で使用できる部屋では5名の参加が限度であり、今の時点では長期の教室の再開は難しいため、形式を変えての実施についても検討する必要がある。

* このような状況で、新規学習希望者の受け入れをどうしていくかが課題。

* 学習者のほとんどが高齢者であり、障害がある方もおられる。どこまでも配慮すべきか、また、配慮すれば実施できるのか困っている。

* A 教室

①O 公民館（日曜日 14時～16時）

- ・学習者の参加意欲が低下しているのではないか。
- ・自由参加で開催しているため、学習者の参加者数が予測できない。

②P 公民館（火曜日 10時～11時30分）

- ・外出自粛の間に日本語学習の必要性を再認識した学習者が、数年ぶりに参加したため、予測していた人数よりも増えた。

B 教室

①Q 公民館

- ・教材を共有しないようプリントで対応してきたが、辞書は数が少ないので、どうしても共有しなければならないため、こまめな消毒が必要ではないか。

事務局として共通の課題・悩み

教室は自由参加で予約なしで開催しており、運営は市民ボランティアが担っている。事務局と情報共有などは心がけているが、コロナ対策については事務局の責務が必要と思われる。しかし、毎度、事務局が運営に携わってしまうと、長年培ってきたいい意味での自由さが軽減する恐れがある。

* 机の配置を変えて、定員を制限するため、教室の受入れ可能人数が少なくなる。できるだけ追加で別の部屋を確保するよう努めているが、確保できない週はどうすればいいか。現在は、学習者もボランティアもできる人だけ個別にオンラインで対応しているが、今後第二波が来た場合にクラス全体でオンラインに切り替えるか、各クラスでボランティアと検討したい。

* 机の配置を変えて、定員を制限するため、教室の受入れ可能人数が少なくなる。できるだけ追加で別の部屋を確保するよう努めているが、確保できない週はどうすればいいか。現在は、学習者もボランティアもできる人だけ個別にオンラインで対応しているが、第二波が来た場合にクラス全体でオンラインに切り替えるか、今後各クラスでボランティアと検討したい。

* 出来る限り感染防止対策の準備を整え教室開催できるように準備しているが、例えば学習者と学習支援者との距離や接し方でどうしても寄り添って教えなければならない場面が起こった場合の対処の仕方等、想定外の事が起こりうるのではないかと不安は尽きない。

* 例（例：1対1の対面でこれまで実施してきたので、どのような形態で教室を開催すれば良いのか悩んでいる。他自治体でどのようにしているか知りたい。）と同様の悩みを抱えている。ボランティアの多くが高齢者で、1対1の濃厚接触に不安を感じている。各教室の判断に任せているが、フェイスシールドやアクリル板等、何が一番効果的かつ違和感が少ないか事務局でも検討中です。

* 学習者の中には、外国と日本を行き来する人との接触がある人が少なからずいらっしゃるので、そういった人への日本語教室の提供を今後どうしていくか悩んでいる。例えば、パイロットやCA、外国からきたお客様を接待する人。空港で働く人、など。現在は、外国との行き来はほとんどないが、今後日本が外国との往来を認めていった際に、指導者の日本人の方（高齢者が多いので）はご不安だと思うので、事務局としてどのようなルール作りをしていけばいいのか思案中です。

* コロナ対策等により、いつ教室が閉鎖されるかわからず、長期的な展望、見通しを持ちにくい。

* ①席を出来るだけ離す。

②参加者を制限する。

* ①日本語があまりわからない方に対するコロナ防止策徹底の説明をどのようにしたらよいか。

②事前連絡なしで教室に来てしまう方の受け入れ方法について

* Zoomでの再開を予定しているが、ボランティアの方の登録数が少なく学習者とのバランスに悩んでいる。他の自治体でZoomで日本語教室をされているところがあれ

ば、工夫している点について知りたい。

- * ①使用できる部屋によって、人数制限が異なるため、新規学習者の受け入れは中止することになるが、その情報が正しく伝わるかどうかわからないこと。
②また、これまで参加してくれていた学習者、ボランティアが、どのくらい参加してくれるのかが読めないこと。
③お互いが距離をとって、どこまで学習が続けられるかもわからないこと。

- * ①対面指導で教室を行っているので、3密を防ぐにも限界がある。
②学習生に高齢者が多いので、もし、新型コロナウイルスに感染した場合には重症化するリスクが高くなる。
③講師の数が限られているため、分散開催もしにくい。

- * 受講者が外国人ばかりであるため、日本語がまだ十分に理解できていない受講者に感染症予防対策を説明しても、どれだけ理解できるか少々不安がある。受講者数をある程度制限する必要があるため、今後、受講を希望する人に受講待機もしくはお断りをする事が出て来るかもしれない。

- * ①スタッフはほとんどが高齢者であり、感染した際のリスクが高い
②教室の定員に制限があり、参加者（学習者）が増加した場合の対応
③既存の学習者やその知り合いに対し、教室参加前の事項について周知を予定しているが、全く新規の学習者に対しての周知について（ホームページや施設内の張り紙以外に何か手法はないか）

- * ①長期休館を経て再開を告知するにあたり、学習者への直接連絡を試みたがメールでの連絡ができる学習者は限られており、明確な連絡方法がないことが課題となった。
②ボランティアの間には感染防止策に対する温度差があり、より厳しい対応（毎回の机の消毒等）を求める声もでた。可能な範囲でその声を対応に反映させているが、すべてを反映させることはできないため、その説明などが難しい。
③いくつかの教室で ZOOM による実施をおこなった。今回は既存参加者を対象として実施したが、オンライン教室は新規参加者にどこまで、どのように開くのが難しい。たとえば、ホームページなどで公開すると、全国、世界中から参加者が集まる可能性があり、地域の教室としての目的との間で齟齬や無理がでることが懸念される。
④通常は2つの教室で並行して「子ども保育」を実施しているが、感染防止の観点から6月中は休止をしている。本来、「子ども保育」事業は、子育て中・就園前の親子

の社会的孤立を防ぐことが目的であり、新型コロナ状況下でこそ開催の必要があるという面もあり（実際に外国人市民からの問い合わせもある）悩ましい。

* 参加される方が、比較的高齢の方が多いため、どのように安全を確保しながら開催するのか、他自治体の開催方法を知りたい。

* ①学習者、学習支援者ともに高齢のため感染リスクが高い。

②学習者、学習支援者間で感染症に対する意識の差があり、対応について検討していた際に議論となった。

アンケート用紙

「識字教室、識字・日本語教室、地域日本語教室開催状況アンケート」

ご協力をお願い

平素よりの識字・日本語活動へのとりくみに敬意を表します。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、「緊急事態宣言」前後から、多くの識字教室、識字・日本語教室、地域日本語教室（以下、一括して「教室」と略します）が休講してきました。「非常事態宣言」が解除されたのち、再開にむけて対策などを講じるところが少しずつ出てきています。

しかし、再開にあたってはさまざまな困難があり、どのように配慮や工夫をした上で教室を再開すればよいのか悩んでいるところが少なくありません。当センターにも、そのような担当者の方から問い合わせの声が届いています。

そこで、広く担当者の方にアンケートをとり、教室などがお互いの悩みの解消に役立てることができればと考えました。皆様からの回答を広く情報共有することで、より安心できて実りの多い教室再開のヒントがえられるものと確信します。

ご多忙のところ恐縮ですが、調査の趣旨などをご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

【アンケートにお答えいただく前にお読みください】

- * このアンケートは、識字・日本語センターが実施するものです。
- * このアンケートは、大阪府内各市町村の識字・日本語教室ご担当者様、国際交流センターの日本語教室ご担当者様にお送りしています。
- * 2020年6月1日現在の状況をお知らせください。
- * 成人を主な対象とする主催教室の状況についてご記入ください。
- * 締め切りは、**2020年6月21日**です。
当日までに以下事務局メールアドレスまでご回答願います。
提出先：識字・日本語センター事務局 shikiji@call-jsl.jp
- * 回答は統計的に処理します。調査結果を公表する際には、個々の名前が出ることはありません。結果はみなさまにお知らせするとともに、当センターHP、FBで公表させていただきます。
- * 教室開催に関する資料等（教室開催状況チェックリスト・健康管理シート等）がありましたら、アンケート回答と一緒にメールでお送りください。
- * アンケートでご記入いただきましたメールアドレス等は、今後、識字・日本語センターから識字・日本語学習に関わる情報の配信に使わせていただくことがあります。
- * アンケートは、全部でA4、4ページ（本ページ含む）あります。

2020年6月8日

識字・日本語センター 事務局長 丸山 敏夫
(担当) 菅原智恵美

URL <https://call-jsl.jp> E-mail shikiji@call-jsl.jp

2. 休講中の対応

教室休講中、どのような取り組みを実施されましたか。当てはまる項目に、いくつでも✓を入れてください。

- 学習者への連絡（手紙・電話・メール・訪問など）
- 学習パートナー（支援者）への連絡（電話・メールなど）
- 学習者健康状態の確認
- 学習者の困りごとなどの相談
- 学習者に学習教材を配布（プリントなどを配布）
- 教室のたより（学級通信）を配布
- インターネットを利用してオンラインで教室活動を実施
- その他⇒下の枠内に具体的にお書きください。

※状況を把握されていない場合は以下に✓を入れてください

- 把握していない

3. 教室再開についての工夫

教室を再開するにあたってどのような工夫をされていますか。

4. 教室を開催する際、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からどのようなものを教室として準備されていますか（準備中も含む）。当てはまる項目にいくつでも✓をお願いします。

- マスク フェイスシールド 健康チェックシート アクリル製仕切り板
消毒液 キッチンペーパー 受講者名簿 ハンドソープ・石鹸
非接触型体温計 大阪コロナ追跡システム
感染予防に関するプリント（手洗い方法や3密を避けるなど記載されたものなど）
その他

5. 教室開催についての課題、こまりごとなどご自由にご記入ください。

例：1対1の対面でこれまで実施してきたので、どのような形態で教室を開催すれば良いのか悩んでいる。他自治体でどのようにしているか知りたい。

ご協力ありがとうございました。